

Index

■2008 賀詞交歓会 報告

■第 302 回 サロン・ド・エナ講演会 報告

■会員の皆様へのお知らせ

□第 304 回サロン・ド・エナ講演会開催の案内

□平成 19 年度日帰り見学会のお知らせ

(財)エンジニアリング振興協会
地下開発利用研究センター

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6

TEL 03-3502-3671(代) / FAX 03-3502-3265

ホームページアドレス ; <http://www.ena.or.jp/GEC/>E-mail アドレス ; gec-adm@ena.or.jp

■2008 賀詞交歓会 報告■

今年も恒例の当協会の新年賀詞交歓会が、1月7日(月)午後3時30分より、ANA インターコンチネンタルホテル東京「プロミネンス」において、官庁、大学、賛助会員企業の役員の方々等800名を越えるご出席を頂いて盛大に開催されました。

開会にあたり、エンジニアリング振興協会を代表して増田 信行会長(三菱重工業(株)相談役)より次のような挨拶がありました。

「昨年の日本経済ですが、平成19年度上期の決算発表では、多くの企業で収益の高い伸びが続いている傾向が読み取れるのですが、昨年12月発表の日銀短観によれば、設備投資、雇用は堅調ながらも円高・米国企業の不安感などで企業の先行き警戒感は強くなってきているようです。また、家計部門の改善テンポは緩慢な状況で消費者マインドは、賃金が伸び悩む中、ガソリンや生活関連製品の値上げ、年金問題など将来に対する漠然とした不安などを受け足元がやや悪化していることが気がかりです。一方海外経済に目を移せば、

米国のサブプライム住宅ローン問題に起因する住宅投資の落ち込みから米国経済の減速が懸念されています。

100ドルに迫る原油価格高騰の恩恵に与る中東産油国やBRICs諸国が高い経済成長率を続けているほか、東アジア経済も好調な中国経済成長を反映し、今年も世界全体としてみれば、拡大基調を歩むものと期待できます。こうした市場環境のもと、私どもエンジニアリング業界に目を向けますと、昨年11月に発行いたしました当協会の「エンジニアリング産業の実態と動向」によれば、平成19年度も十年に一度と比喻される高水準の中にあり、受注高は、前年度と同一レベルの12兆619億円に達しております。平成19年度の特筆すべき傾向は、中東一極集中から東南アジアのシェアの上昇と東欧・ロシア・CIS・北米・大洋州などほとんどの地域で受注拡大が見られた点にあります。平成20年から22年度の中期見通しでも、国内が15.2%増、海外では、29.8%の大幅増が見込まれ継続的な成長を維持していくものと考えております。



増田信行会長 挨拶



経済産業省製造産業局 内山俊一次長 挨拶

このような環境の中、将来にわたりグローバルな競争に勝ち抜き、発展を続けるエンジニアリング産業を支えていくのは、まさに「人」であります。

一昨年発足しました「産学人材交流センター」の充実を図るとともに、昨年経済産業省公募事業として「次世代のエンジニアリング産業を担うプロジェクトマネージャー育成事業」が採用され遂行しているところです。

このような産学が一致協力した人材育成事業を通じて、広く学生から各社の若手・中堅エンジニアのプロジェクトマネージャーの育成を図り、この業界の国際競争力強化に繋げてまいる所存であります。

私ども「(財)エンジニアリング振興協会」は、本年 8 月に設立 30 周年を迎えます。記念の年にふさわしい事業の企画推進役として「総合企画会議」を位置づけ、エンジニアリングシンポジウム、功労者表彰式、記念パーティは、30 周年を冠して実施してまいります。特別企画としては、「エンジニアリングの魅力を PR する小冊子」を作成する予定です。

今後、当協会がエンジニアリング産業の発展に寄与していくために、会員企業にとって実効性がある魅力ある存在となり、さらにこの産業の社会的認知度を一層高めることを主眼に経済産業省のご指導・ご支援を賜りながら活動を展開してまいる所存でございます。」

続いて、来賓の経済産業省 製造産業局 内山俊一次長のご挨拶がありました。

「皆様、明けましておめでとうございます。先のご挨拶にもありましたように本年は、エンジニアリング振興協会の発足 30 周年を迎える記念すべき年であり、現在の増田会長、竹内理事長を初め歴代の役、職員の大変なご尽力により益々の発展、また進化し続けている

立派な団体です。

この 30 年を振り返りますれば、発足した 1978 年は成田国際空港の開港があり、まさにグローバル社会への幕開けの年でした。また、イラン革命に端を発する第二次石油ショックのあった年でもあります。最近、原油 100 ドルバレルという声を聞きましたが、思い起こせば、その 5 年前にあった第一次石油ショックの時と比べますと学習効果もあり、省エネルギー技術開発に加えて、何よりも企業の皆様の合理化努力があって上手に乗り越えたと思います。こういった中で、このエンジニアリング業界は、国内外のインフラ整備、そして、エネルギー産業を始めとする基幹産業を支える重要な産業です。また、グローバルに展開する我が国産業のフロンティアとなって切り拓いてきた業界でもあります。そこには、確かな技術、豊富な経験とノウハウを持つ信頼される人材がいます。

今年は、地球温暖化の問題、原燃料価格の高騰など厳しいビジネス環境となりますが、新たな事業展開、あるいは、人材対策など直面する課題に正面から取り組んでいただいて、官民連携のもと「生産性向上の検討」、「人材育成への取組み」、「情報発信力の強化」について、私ども経済産業省も積極的に取り組んでいきたいと考えております。

本年が大変良き年でありますよう、エンジニアリング業界の益々の発展と大いなる飛躍の年になるよう祈念します。」

引き続き、竹内 敬介理事長(榊日揮 代表取締役社長)の乾杯の音頭により、懇親会が始まり、多くの方々の談笑の輪が広がり懇親を深めつつ時が流れ、盛会のうちに閉会となりました。

■第 302 回サロン・ド・エナ講演会 報告■

恒例の第 302 回サロン・ド・エナ講演会は、12 月 19 日(水)17 時 30 分から「都市再生プロジェクトと都市の未来」と題して内閣官房 地域活性化統合事務局 参事官 武政 功氏をお招きして開催しました。満員となった会場の皆様方は、講師の詳しい説明に最後まで熱心に傾聴されておりました。

講師は、「都市再生本部」が平成 13 年 5 月 8 日に閣議決定して発足して以来、これまでの都市再生の取組



武政参事官 講演

みについて説明されました。

都市再生は、「民間都市開発投資の促進」、「都市再生プロジェクトの推進」、「稚内から石垣まで・全国の都市再生の推進」を柱とし、これらを進めるため都市再生特別措置法(平成14年6月1日施行)が制定されていること、「民間都市開発投資の促進」のために都市再生緊急整備地域が平成19年2月の6次指定まで全国で65地域(約6,612ha)に及んでいること、緊急整備地域内の民間投資の促進効果は、約12兆円にのぼり経済効果は、約23兆円に波及していることが報告されました。

「都市再生プロジェクトの推進」については、平成19年6月の第13次決定までに23のプロジェクトが逐次推進されていることを挙げられ、具体的な事例として、平成13年6月第1次決定の「東京湾臨海部における基幹的広域防災拠点の整備」に始まり、平成19年1月第12次決定の「密集市街地の緊急整備」の加速まで様々な都市再生プロジェクトを紹介されました。

その中で、具体的な進展として「空港の機能強化と空港アクセスの向上」や「首都圏三環状道路等整備」の羽田空港再拡張や成田新高速鉄道、また首都高中央環状線・東京外郭環状道路・圏央道の整備が進んでいる事例を挙げられ、着々と都市再生プロジェクトが進展していることを強調されていました。また、第8次決定の「都市再生事業を通じた地球温暖化対策・ヒートアイランド対策の展開」についても触れられ、時代の要請に相応する展開も紹介されました。

「全国の都市再生の推進」については、平成15年度から19年度までに全国から2,827件の提案が寄せら

れ、その内、805件が「全国都市再生モデル調査」に選定され、その調査結果を踏まえて「まちづくり交付金」への本格展開に至った地区が196件に達していることを明らかにされました。

「全国都市再生モデル調査」では「稚内から石垣まで」を合言葉に、北海道士幌町の「花粉症疎開ツアー」、愛知県豊川市の「中心市街地のレトロなイベント」、山口県下関市の「景観整備やロープウェイの再開実験」など全国を縦横断して着実に根付いていることも紹介されました。

また、これらの都市再生の取組みを支える自治会・町内会など地縁団体、NPO、大学、開発事業者、企業などの「都市再生の担い手」支援にも力を入れているとのことでした。

さらに、最近では、グローバル化した金融・資本市場の国際競争に備えるために国際金融拠点機能の強化に向けた都市再生の推進を打ち出していること、今後の都市再生の取組みについても、内閣が統一方針を決め、様々なステークホルダーが一致協力することを目指していることを明言されました。

最後に、平成19年10月5日閣僚懇談会の福田総理大臣の指示を受け、地方再生のための新たな戦略的取組として都市再生本部を含む地域活性化関係4本部を統合し「地域活性化統合本部」として一元化されることも紹介され、全国の都市再生プロジェクトの発展が益々期待できることを伺って講演を終えました。

いくつかの質疑の後、盛況のうちに講演会は終了しました。

■会員の皆様へのお知らせ■

□第304回サロン・ド・エナ開催のご案内

日時：平成20年2月20日(水)17:30~20:00 (於：当協会6階CDE会議室)

テーマ：明日の海洋産業を支える「創造と成長の法則」

—今、何故海洋開発に創造と成長が必要なのか—

講師：上原 春男 殿 元佐賀大学学長 現NPO法人 海洋温度差発電推進機構 理事長

講演要旨： 海洋温度差発電 (OTEC: Ocean Thermal Energy Conversion) は海洋表層部の温海水と深層部の冷海水との僅かな温度差を利用して発電する技術であり、スプレー・フラッシュ法と組み合わせることで海水の淡水化も可能である。佐賀大学では昭和48年から本格的にOTECの実用化に向けた研究開発を継続し、その中核となる「海洋エネルギー研究センター」は21世紀COEプログラムに選定されるなど世界トップレベルの研究拠点に成長している。

国土が狭隘な我が国は必要な資源エネルギーの多くを海外に依存してきたが、BRICS諸国の経済発

展や資源ナショナリズムの台頭などから安価な入手が困難になっている。一方、世界第6位の面積を有する排他的経済水域には膨大な鉱物資源やエネルギー資源が賦存しているとされ、昨年7月の海洋基本法施行を契機に海洋開発の気運も急速に高まっている。

本講演では、創造性を持って研究開発を継続し、海洋エネルギー研究センターを世界トップレベルの研究拠点に成長させた経験から得られた教訓を OTEC の研究開発に関わるエピソードを交え講演していただくと共に、低迷を続け閉塞感さえ漂う我が国の海洋開発にイノベーションを引き起こし、我が国が真の海洋立国として成長していくための「創造と成長の法則」について講演していただく。

(講演終了後、立食パーティーを行います。)

申込要領： FAX で事務局へお申し込み下さい。申込多数の場合は先着順で締め切らせていただきます。

地下開発利用研究センター 事務局 中村(TEL:03-3502-3671/FAX:03-3502-3265)

□ 平成 19 年度 日帰り見学会のお知らせ

A コース

見学先：*東京地下鉄(株)

東京メトロ副都心線 新宿 3 丁目新駅

*国土交通省 東京国道事務所

新宿駅南口地区基盤整備事業

新宿南口人工地盤&連絡地下道建設工事

見学日時：平成 20 年 3 月 5 日(水)14 時 00 分

新宿区新宿 5-18-21 東京メトロ新宿工事事務所前集合

募集締め切り：平成 20 年 2 月 29 日(金)

募集人数：25 名(先着順)

見学先概要：

東京メトロが建設を進める副都心線は、開業を今年夏に控え、開業へ向けて試運転を開始して仕上げ作業も急ピッチで展開されています。

今回の見学は、新宿 3 丁目新駅の構内を開業に先駆けて見せていただきます。

この新駅は、最新の設備が施され防災面での対策も必見です。また、この新駅と新宿南口を連結する地下道の建設工事を見させていただきます。

この工事は、矩形断面のシールド工事で大変珍しい口径の開放型半機械式シールド機を使用して掘進します。見学の時期は、ちょうど立坑に鎮座して発進を待つシールド機が見られます。さらに新宿南口で展開される人工地盤の建設状況も併せて見学します。



※シールド機外径 縦 7,820mm、横 4,720mm

国土交通省・東京国道事務所 提供

B コース

見学先：東京急行電鉄(株) 新・渋谷駅(仮称)

見学日時：平成 20 年 3 月 13 日(木)15 時 00 分

東急東横線渋谷駅改札口前集合

募集締め切り：平成 20 年 3 月 7 日(金)

募集人数：25 名(先着順)

見学先概要：

この新駅は、東京メトロ副都心線と相互乗り入れが決まっている東急東横線の新駅として生まれ変わるものです。

安藤忠雄氏が設計に携わり、地下の宇宙船をイメージしたユニークな吹き抜け構造を持つ、大変珍しい地下駅が姿を現します。駅全体が、「楕円のカプセル(=地宙船)が地下に沈み込んだような構造」でホーム天井部分が球体の「船底」となります。(※楕円直径 80m、短径 42m)

また、東京急行が進める代官山から渋谷までの地下化事業の概要もお聞きします。

新しく生まれ変わる「渋谷」の最新事情を感じ取れる絶好の機会となります。

新駅のイメージ図



<http://www.shibukei.com/headline/photo/4660/index.html>

連絡先：地下センター 三井田, 中村

TEL 03-3502-3671/FAX 03-3502-3265

E-mail: gec521@enaa.or.jp または hiromi@enaa.or.jp

※A コース、B コースともに参加費は、無料ですので奮ってご参加ください。(交通費は、各自負担。)